

平成23年度 第3回八尾市産業振興会議 議事録

日 時	平成24年3月15日（木）午前10時00分～12時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 大ホール1
出席者	<p><委員> 鶴坂委員(座長)、文能委員(副座長)、安達委員、石部委員、周防委員、谷口委員、中浜委員、浜田委員、藤下委員(代理出席：近畿経済産業局 細見地域開発室長補佐)、藤原委員、村本委員、山崎委員、横山委員 計13名</p> <p><事務局> 角柿部長、松井理事、尾谷次長、築地参事、濱崎参事、岩井課長補佐、伊東室長、主井係長、古賀係長、堀江 計10名</p> <p style="text-align: right;">総計23名</p>
—事務局による司会で次第に沿って進行—	
1. 開会	
2. 経済環境部長挨拶	
3. 議事	
(1) 平成24年度以降の産業振興会議の進め方について 資料1、2に沿って事務局から説明	
【質疑、意見交換】	
委 員	人口減少やグローバル化等により企業数の維持どころか減少が当然となりつつあるが、新規創業を促進することによって、新たな雇用を生んでいく必要がある。
委 員	市内事業所の若手経営者が集まって電動バイクを開発する取組みがある。いろいろな人が融合し、アイデアを出し合って新たな市場の創出を進めていただきたい。またそういった取組みにおいては、リーダーシップのある者の存在も重要。
委 員	中小企業は図面があればそのとおりに作れるが、自分たちで発想力を持って新たなものを作り出していくのは苦手。逆に商業者は発想力がある。商品を扱う過程で改良点などにも気付くこともあるだろうし、商業と工業と一緒に議論できる機会があればと思う。また現在、中小企業サポートセンターでは府の認証制度の取得支援を進めているが、国の制度も含めた認証企業が増えていけば、それが八尾のブランドにつながる。
委 員	先日、八尾の食のコンテストが開催された。市内の事業者が枝豆、若ごぼうなどの素材を用いたものや玉串川のさくらをモチーフにしたものなど、様々な商品が出品され、八尾の地場産のものをPRするいい取組みだと感じた。次年度もこういった事業を継続していただければ。
委 員	いろいろな情報が多量にある中で、いかに必要な情報を市民がキャッチしやすくすることができるということが重要。情報が届けられれば工業、商業それぞれから「八尾」といところに繋がりを持たせていくことができる。特に商業については、顧客とお店の距離が身近であり、そこから輪を広げて行くことができれば、市民のところまで枝葉が届くようになるのでは。
委 員	現在、地域商業活性化のための三種の神器として「100円商店街」、「バル」、「まちゼミ」がある。

まちゼミでは各商店でゼミ形式の教室を開催し、お店の商品のこだわり等について述べるが、そういった場でも、実際にものを製造している側として、八尾のものづくりを絡ませることもできるのでは。来年度以降の検討では商工連携を含めた議論を行うことも考えられる。また、振興会議本体及び部会に会議所のメンバーも入ってもらえるのも一つでは。

事務局：現在も商工会議所の会員企業の中から委員推薦をいただいている。また、事務局の出席について、本日は業務の関係で欠席されているものの本体会議にはオブザーバーとして出席依頼をしている。また検討をさせていただきたい。

委員：具体的に検討するのは資料2の下の枠内のテーマということだが、今回のテーマは大きすぎるように感じる。先日、まちづくり活動に携わっている方と意見交換をしたが、八尾市全体で盛り上げようという一体感が必要。まちを元気にするためには、みんながワクワクするような取組が必要。

事務局：資料2に記載している個別テーマの候補はあくまで事務局案であり、具体的にどういった内容を検討するかについては皆さんで議論を行う中で絞っていくことになる。

委員：今、商業の世界は限られたパイの奪い合い。拡大しないパイをどう取っていくかを考える必要があり、まさに地域間競争をしなければいけない時代になっている。また、「イメージ」という点では、2点考えるべき点があり、一つは難波や梅田にいかなくても八尾の中で全て手に入るというイメージを作ることができるのかという点。もう一つはネット上でのイメージ作りが重要だという点がある。話題性のある商品は高くても売れる。八尾にも有名店の商品と比較して味や価格で引けをとらない商品を扱っているところも多く、こういったものをできるだけアピールしていきたい。ただ、百貨店は取り組み方によると地元の商店と競合してしまう。地域の商業者と共存する形で取り組めることがあれば積極的に協力していきたい。

委員：仮に同じような魅力があったとしてもエリアを超えた集客は難しい。それこそ仮に八尾がミニ難波化したとしても集客はできないと思われる。地域資源を活かした八尾独自の特徴、八尾らしさが必要。そしてそういった八尾の特徴を創り出すためには事業者や市の産業部門だけでは難しい。大変かも知れないが、様々な人々を巻き込んでいく必要がある。

委員：商業と同様、工業においても限られたパイの奪い合いとなっている。グローバル化の大きな流れの中でTPPなどもあり、国内企業は海外との競争で生き残っていく必要がある。国内市場は縮小していくと考えられるが、東南アジアなど市場が拡大しているエリアもあり、こういった拡大しているところと、八尾の産業集積がどのように繋がっていくのかということも考える必要がある。そういった中では、例えば、教育分野ではグローバルコミュニケーションの能力も重要となる。10年先を考えると産業集積の維持発展には、非常に難しい課題が多く、教育、建築などまちづくり全体との連携も必要となっていくと思われる。

委員：新たな取組みはワクワクした感じがないと前に進まない。また今はビジュアル的にいかに訴求するかも重要。他地域のキャラクターの立体看板を作る企業など、八尾にはビジュアル的に訴えかけていけるような商品、技術を持った企業もあり、そういった企業を活用することで八尾のイメージ構築を行うことも考えられる。

委員：ここ数年、大阪市内の飲食店やスーパーにおいても、八尾の若ごぼうを使うところが増えてきている。先ほど、他地域での市内企業の取組みの話があったが、知らないところにメイドイン八尾があり、そのような市の外部の情報をキャッチすることも重要。一方で市の中で行われていることも重要であり、外部と内部それぞれの情報が重要。また、商業者や工業者などだけの視点で議論をすると、市民が置いてけぼりになってしまうので気をつける必要がある。

委員：高安の山手では、昔あった工場、商店の多くはなくなってしまったが、一方で住宅は増えている。また、近隣に新たに商店ができてはすぐに閉店となってしまう。若い世代は車があるから問題ないが、いずれ高齢化した時にどうなるのか。そういったことも考える必要があるのでは。

委員：今回のテーマは八尾だけで解決できる問題だけでなく、広域・他分野にまたがるものもある。全体としては2年間で議論をするが、1年ごとに途中で総括をするという形を考えている。議論を行いながら適宜軌道修正しつつ進めるということで、テーマ全体としてはこの事務局案で良いか。

⇒OK

(2) 平成23年度事業実施状況報告及び平成24年度実施予定事業について
資料3-1、3-2、4、5に沿って事務局から説明

【質疑、意見交換】

委員：説明のあった産業情報ポータルサイトとはどういったものか。

事務局：市内事業者を対象としたもので、国や府など様々な実施主体の支援施策等の情報が全て集約したサイトとなる。今までの市HPでは、支援施策の情報にたどり着くまで階層も深く探しにくかった。また商工振興拠点として、商工会議所や政策金融公庫の施策も一つのサイトで見つけられるという発信もできる。個別に探さなければならなかった国や府の施策もここで探すことができるので、是非ご活用いただきたい。

委員：商工振興拠点でのワンストップサービスは、本気で取り組まないと実現が難しい。他地域では、ワンストップサービスと言いながら、ただ看板がかかっているだけという所もある。相談に来た方が安心できるような体制を作る必要がある。

事務局：商工会議所とは組織間の物理的な距離も近くなったことで、いつでも相談ができる関係が構築できている。また、毎月「政策連携会議」という意見交換する場を設けており、互いが連携する関係は構築できているとご理解いただきたい。

(3) その他報告事項

資料6に沿って八尾市緊急経済雇用対策について事務局から説明。

各委員より、2年間の任期を終えた感想・意見。

委員：これからは八尾が他地域と比べて魅力的になることが重要。機会があれば、場所の提供などをはじめ色々と協力できることはあるので、よろしくお願ひしたい。

委員：府立高校の協議会で八尾の地域情報誌（フレマガ）を委員に配布した。自分のできる限りのことで情報発信をしていきたい。

委員：2年間参加し、生まれ育った八尾市で、こうしたあとに形に残るものに参加できたことは非常にいい経験だった。今後も産業振興会議では活発な議論を行っていただければと思う。

委員：色々な方がワクワクできるような施策という意見が先ほどあったが、なかなか難しいところもあると思われる。業界団体の中で広報委員を務めた時期があり、イベントの実施などしたが、どのように広報を行い、関係者以外の一般の参加者を得ることができるかというところがやはり難しい。その点を頑張ってもらって、色々な方が八尾に関心を持ってもらえるようにして頂ければ。

委員：八尾市民は人情味溢れるいい人ばかり。地下鉄、近鉄、JRが通っているなど利便性も高い。今後は行政、事業者、消費者が一致団結して、地域ぐるみで八尾の魅力を発信していければ。

委員：企業の相談窓口の業務を行う中で、中小企業、上場企業の様々な情報が入ってくる。実際の状況を見聞きした中で、それを実際にどのように活かして行くことができるか考えていきたい。

委員：この2年間で、他の委員の皆さんの活動や思いについての話しを聞くことができ、また、出された意見に対し、市がどのように形にしていくかの過程を見ることができた。八尾バルの開催など、市内で様々な活動がはじまっている。こういったことに市としても関わっていき、広がっていくことが、八尾ブランドの構築につながっていくのでは。

委員：一昨年に八尾市内の工場マップを作ったが、そのときに初めて八尾の工場の多さに気づいた。また去年は、市内の商店マップを作り、様々な魅力あるお店を知ることができた。このようなことをより多くの市民に知ってもらいたい。

委員：グローバル化の中で日本のものづくりは厳しい状況にある。現在作っているものも新たなものに変えていかないと中国や韓国に抜かれてしまう。一方で中小のものづくり企業は自ら変わっていくことが苦手。先日、中小企業サポートセンターのアドバイスで会社の弱点を指摘され、その気づきをきっかけに業績が伸びてきている。以後も研修会など情報を提供してもらったりしている。このような細かなフォローを引き続き行っていただけるとありがたい。

委員：国の中小企業憲章では中小企業は経済の根幹だと述べているが、そのことについて中小企業自身がも

っと自覚することが重要。また、誰かが何かをしてくれるのを待っているのではなく、今後自らがどうし行動していくべきかを考える必要がある。自覚と自立が重要であり、そういった考えに立った議論を今後行うことができればと思う。

委員：八尾市内の企業へ行ったヒアリングの中で、商品開発の悩みを抱えているが、市や商工会議所へ相談するのは敷居が高くて中々できないという話を聞いた。相談者がより気軽に利用してもらえるよう環境作りをする必要があると感じる。

委員：行政の提案に対してイエスというだけの会議体が多い中、この産業振興会議は本当に熱心な議論が行われる会議であると感じている。提言の内容を受けた形で、基本条例の改正がなされ、また、教育委員会への働きかけを通じて、小学校の教材DVDの制作といった人づくりのための施策が進められている。行政が枠組みを作っても、それを実際に形にしていくのは人。情報発信の提言書において人づくりの重要性が述べられたが、この点を特に留意し進めていただきたい。

委員：大学でチームビルディングに取り組んでおり、様々な考えの人たちを一つにまとめていく難しさを感じている。チームビルディングにおいては人に対する思いやりが重要。議論も表面的に行うのではなく、相手に対して思いやりを持つことで、「どこまですべきか」といったことの線引きもうまくでき、まとまっていくことができる。この2年間で産業振興会議は一つのチームになれたと思う。今後も引き続きそういった形で進めていくことができれば。

3. 産業政策課長挨拶

4. 閉会

以上